

# 2022年 11月教会便り 美唄～砂川

主任司祭 ナルチゾ神父

11月1日諸聖人を祝う日です。聖人は特別な人間ではなくて私とあなたと同じ人間ですが、しかし私とあなたと違うのは、聖人は百パーセント愛徳の道を歩んだ人です。



教会は、最初の中から殉教者の殉教記念日を祝ってきました。しかし、ディオクレティアヌス皇帝の時代（4世紀）の迫害のころからは、ある特定の日（復活節中のある日、または聖霊降臨最初の主日）に祝っていました。

私たちは諸聖人が、今は神のもとにあつて、私たちのために取りなしてくださっていることを信じ、諸聖人とともに、喜んでこの日を祝います。

諸聖人を祝って、今度は11月2日、神に仕えて亡くなったすべての人を思い起こし、死者のための祈りを共にします。地上の「生」を超えたいのちに、私たちの心を開かせてくれるのが死者の典礼です。

教会は、死者のために祈ることにより、生きている人だけでなく、亡くなった人をも含む、交わりの共同体であるという考えを深めてきました。

亡くなった人のために祈る日の中心は、いつもと同じキリストの死と復活の秘義です。

日本の教会では、日本社会にキリスト教本来の希望にみちた死生観と、祖先崇拝に福音の息吹をとという心遣いから、『祖先と死者についてのカトリックの手引き』が出されています。

この本は、葬儀やお墓のことで戸惑いや疑問を抱いたことのある方に答えてくれます。



## 11月の主な典礼・ミサ時刻

日	曜	典礼暦	砂川	美唄
6	日	年間第32主日 当教会出身聖職者・修道者のために祈る日 P4 平和を願う	9:00 ミサ 先読み:野呂 第1:岡本 第2:多田 答唱詩編:三上夫妻 オルガン:斉藤	11:00
13	日	年間第33主日 貧しい人のための世界祈願日	9:00 ミサ 先読み:高塚 第1:安藤 第2:西川薫 答唱詩編:古野/間野 オルガン:野呂	11:00
20	日	王であるキリスト(年間第34週) 病者と洗礼志願者のために祈る日	9:00 ミサ 先読み:多田 第1:本田 第2:岡本 答唱詩編:野呂/高塚 オルガン:斉藤	11:00
27	日	待降節第1主日 教会から離れた信者のために祈る日	9:00 ミサ 先読み:高塚 第1:安藤 第2:間野 答唱詩編:古野/多田 オルガン:野呂	11:00

◆平日のミサ ○砂川教会:月曜日～金曜日 6:00、土曜日 10:00 ○美唄教会:金曜日10:30

### ◆今月の霊名記念日の方…おめでとうございます(敬称略)

#### ○砂川教会

8日 スコートウス 山谷神父様  
17日 聖エリザベト(ハンガリー)おとめ 岡本樹里、高塚紀子、納富京子  
22日 聖セシリアおとめ 木村知栄子、佐藤江里子

#### ○美唄教会

17日 聖エリザベト(ハンガリー)おとめ 加賀秀子、菅野瞳  
船野美津子  
22日 聖セシリアおとめ 中村信子

### ◆砂川教会 お知らせ

- ・13日(日) 今田神父様を迎えて黙想会。多数参加してください。
- ・20日(日) 待降節の準備
- ・ロザリオ会は冬季(11～3月)夜間の交通安全を考慮してお休みします。
- ・毎週水曜日 10:00～ 聖書に親しむ会を実施しています。

砂川 花当番	
5日(土)	千田
12日(土)	安藤
19日(土)	室井
26日(土)	—

私は今年の4月から砂川天使幼稚園園長として務めさせていただいております。これまで10人の歴代園長先生は神父様やシスター、そして前園長先生はカトリック教徒であるようにカトリック教育に欠かせない方々でした。そのような中、未信者である私がしっかりとこれまでのカトリック教育、神様の心を伝えていく責任を果たせるのか未だに不安があります。それでも、教会と共に歩んできたこの幼稚園を支えてくださっている神父様、信徒の皆様をはじめ、教職員や保護者の方々など本当に大勢の方に力をいただきながら日々過ごしていることに感謝しております。



私と砂川天使幼稚園との出会いは、41年前の教育実習でお世話になったことです。当時、野呂幸子先生のクラスで実習生としてお世話になったことをよく覚えています。野呂先生は、いつでも笑顔でどんな時でもゆったりと優しく子どもに寄り添いながら、何もわからない私に保育者の仕事や子どもとの関わり方を教えてくださいました。でも、失敗の連続と共にとっても難しい仕事であることを実感し、当時の私は保育者としてやっていく自信を無くしていました。

それでも天使幼稚園は、新任時、結婚後、出産後と3回も私に声をかけてくださり現在に至っています。それは只々感謝しかありません。二十歳でカトリックというものに触れ、最初はよくわからないまま当時の園長先生のドミニコ神父様を始め多くの神父様、シスターから聖書や神様のお話を聞かせていただきました。難しい中にも私の心に深く残ることが多く、幼児期にはカトリックの教えが本当に大切であることがわかりこの幼稚園が大好きになりました。信徒の家族の方のお子さんもこの幼稚園に通っていました。今年亡くなられた千田勝太郎さんのお孫さんもその一人です。お孫さんはいつもニコニコと可愛い笑顔でおじいさんに抱っこされていた姿が私の心に残っています。また、カトリックの教えに触れたことでこれまでの私の生活の中で心の支えになっています。特に母が病気になって入院した時、信徒の高塚先生から晴佐久神父様著書の「恵みのとき」の本をいただき病室の母に読み、母は私に「あなたがカトリック幼稚園に務めているからこんな良い本を読んでもらえるんだね。」と病気を嘆くわけではなくにっこり笑いながら言った時や、母の意識が朦朧としている時に、自然とアベマリアの祈りを唱え自分の心を落ち着かせることができました。こうして幼稚園だけではなく教会の方々にも関わり支えていただいていることに改めて感謝です。私のように神様を知らなかった者が（子どもも）いつかは何かの形で神様を自分なりに感じ、人を大切に思い様々なことに感謝の心を忘れない生き方ができるように、子ども達に育ってほしいと思います。それはまさにナルチゾ神父様が「宗教とは人の道です。」と教えてくださったことです。そして子どもと共に私自身も生きている限り命を大切に、その年齢における成長が必要だと感じています。

教会にすぐ行くことができる幼稚園は恵まれていることです。お聖堂に入り十字架のイエス様に向かってお祈りをする子どもの姿はとても尊いです。今は祈ることの深さはわからないかも知れません。でも幼稚園や教会で、遊んだことお祈りしたこと、神父様のお話を聞いたこと信徒の方に会ったことをぼんやりとでも子ども達がいつか大きくなった時に良い懐かしい思い出として残るように、これからは教会と幼稚園が共に子ども達の成長を温かく見守ってくださることができるよう願っております。そして多くの神父様が、この異国の地でご苦労されながら布教し教会や幼稚園のためにお力を注いってくださいましたことを忘れずに、これからはこのカトリック幼稚園を後世に繋げていかなければと思います。まだまだ力不足のことが多々ありますが、今後とも教職員一同どうぞよろしくお願い申し上げます。